

ファミリー



小野市立河合中学校 小野市三和町 983-2

学校評価と分析について

小野市立河合中学校長 坂本 敏裕

令和4年度も残すところ少なくなってきました。保護者の方には、この一年間、本校教育に多くのご協力、ご支援をいただき深く感謝申し上げます。

さて、学校教育活動に関する保護者とお子さまからのアンケートの回答をもとに、集計結果を分析し、今年度のふり返りと今後の取り組みの方向性について下記のようにご報告させていただきます。

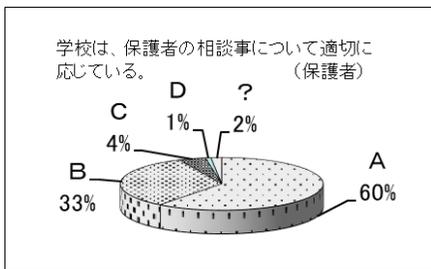
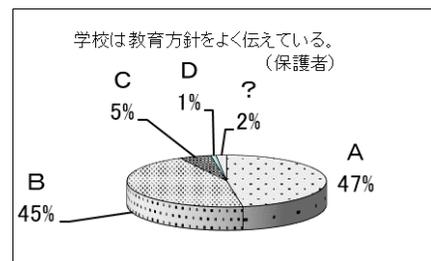
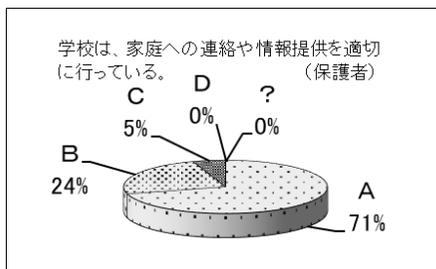
アンケート結果の見方について

アンケートは 6～9 年生の保護者と児童生徒を対象とし、各質問内容について、「A=そう思う」、「B=ややそう思う」、「C=あまりそう思わない」、「D=そう思わない」、「?=判断できない」の選択方式で実施しました。分析は「A・B」を肯定的な評価と捉え、類似する質問ごとに総括し、主だった内容について取りまとめています。

1 家庭・地域への情報提供と連携

学校の教育方針や行事予定を毎月発行しています学校だより「Family」、各学年の学年だより等でお伝えしてきました。学校の様子を保護者の皆様にお伝えすることを通して、教育活動へのご理解が深まるとともに、学校と保護者・地域の皆様が連携することでお子さまへの教育活動の効果も高まっています。5月には、昨年同様、河合地域づくり協議会の協力の下、グラウンドの除草作業を行いました。また、地域の方を講師に招いた「たてわりふれあい講座」や自分たちの地域を知る目的とした「かわい歴史ウォーク」など、地域と共に育つ学校を感じることができました。

HP もリニューアルし充実を図っています。教育活動にご理解をいただけるよう丁寧な情報発信に取り組んでいき、より多くの方の声をいただけるよう工夫していきたいと考えています。



2 学校生活の充実度

学校での生活の充実度に関する項目は右のグラフの通りです。全体的に肯定的な思いをもっている児童生徒の割合が高いことがわかります。特に夢や希望をもって生活を過ごせているようです。また、学習への取り組み方についても、児童生徒、保護者の方、共に高い評価になっています。

授業では、タブレット端末 chromebook が一人一台導入され、調べ学習や、クラスメイトの意見が一目でわかるソフトなどを利用し、学習の幅が増えました。しかし、どんなときにも端末を使うのではなく、児童生徒は決められたルールを守りながら chromebook を用いて学習しています。それは本校では ICT 機器を「使う」ことが目的ではなく、「思考を深めるため」にはどのように利用するかということを考えているからです。また、学年が上がるとともに学習内容が増え、家庭での学習習慣も重要になってきます。定期テスト前には学習実践表を作りますが、日々の課題においても計画的に学習できる習慣作りを進めていきたいと思ひます。ご家庭でも時折お子さまの様子を見ていただければ幸いです。

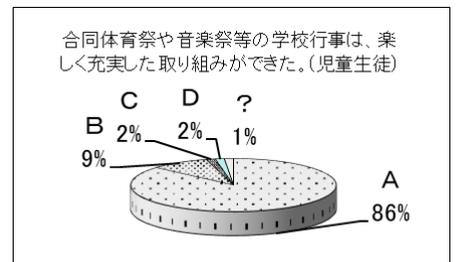
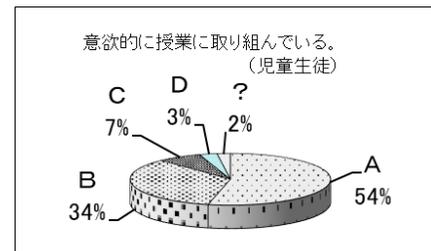
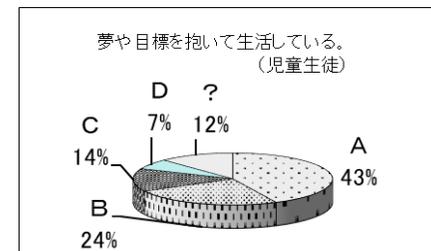
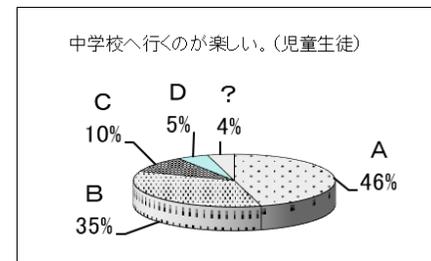
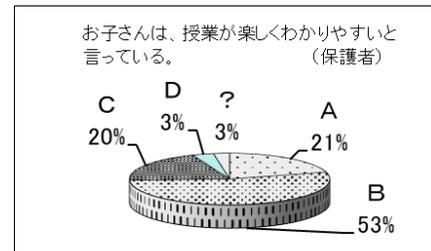
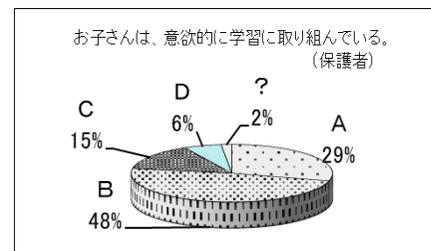
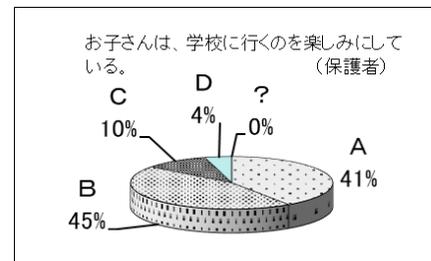
コロナウイルス感染症対策を気にしつつの活動でしたが、児童生徒会スローガンにあるように、仲間とともに創り上げた学校行事でした。グラフの結果のように、多くの児童生徒や保護者の方々にとって充実した活動となりました。

体育祭では、中学生が小学生の目線になって考え、関わりあっていた姿が印象的でした。

音楽祭に向けては、クラスで意見を出し合い、うまくいかない時間もありましたが、その時間も自分たちの力となりました。マスクをつけ、距離をとった合唱でしたが、心の距離はぐっと近づいたように感じました。

今後も学校行事がより良いものになるように、児童生徒とともに考えていきます。そして、学校行事が、児童生徒一人ひとりの成長となるように支えていきたいと思ひます。

また、一つひとつの学校行事を、ご家庭でも話題にいただけたら幸いです。

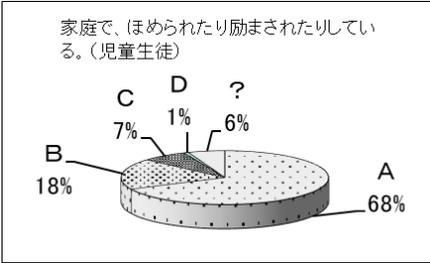
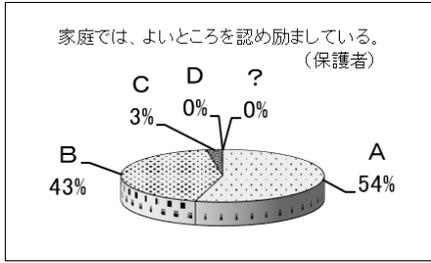
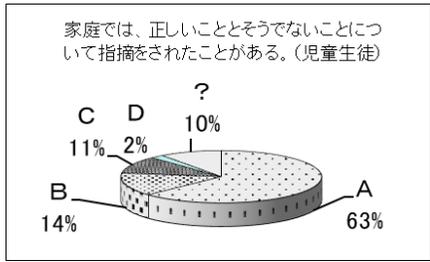
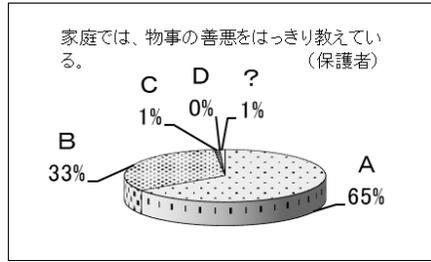


3 家族との関わり・家庭生活

家庭のご指導、協力あつての学校生活です。いつもありがとうございます。

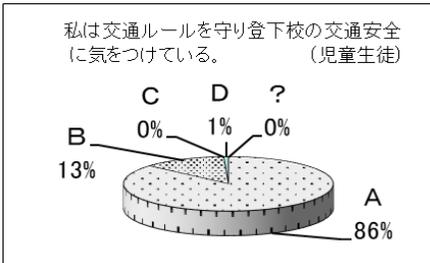
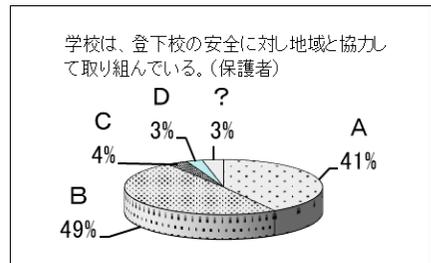
生活様式の変化による悩みやストレス、スマホの使用による生活習慣の乱れなどが増えています。

ご家庭でお子様と話をされる中で、気になることがございましたら、いつでも学校にご連絡ください。

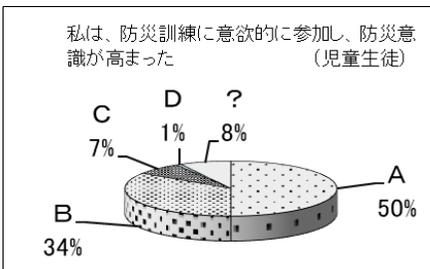


4 安全な登下校、防災訓練・防災意識の高揚

「交通ルールの遵守、安全な登下校(児童生徒)」の項目は、1学期の自転車訓練や各学期の交通についての話を通して、並列走行等の危険な運転に対するの安全意識が高まったように感じています。しかし、乗車横断や並列走行などの危険な自転車の運転に対して、全員が守れているわけではありません。登下校で使用している場所が公共の場であるという意識がまだまだ低く、安全な運転を心がけてほしいと感じています。教員も立ち番等の指導を継続して行なっていきますので、ご家庭でも登下校中のマナー等に関する話をしていただけるようお願い致します。



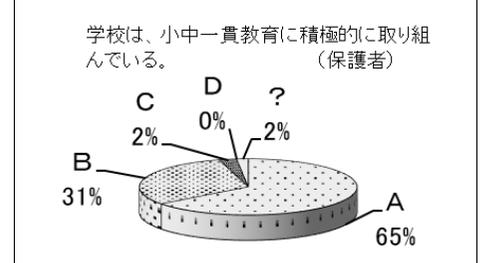
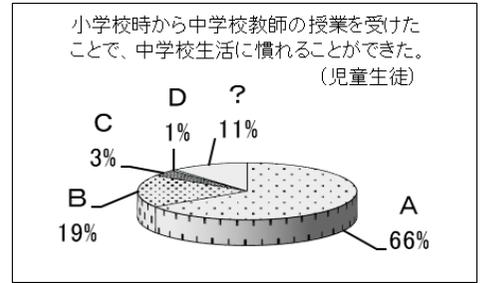
「防災訓練・防災意識」については、例年行っている防災訓練によって子ども達の防災意識が高まっています。1学期に火災を想定した避難訓練、1月13日には阪神・淡路大震災の追悼集会を実施し、防災の意識を高めることができました。また、アレルギー対応の緊急時対応訓練や、教職員間でAEDや心肺呼吸蘇生訓練を実施しています。子ども達の安全を守るためにこれからも継続して取り組んでいきます。



5 小中一貫教育の推進

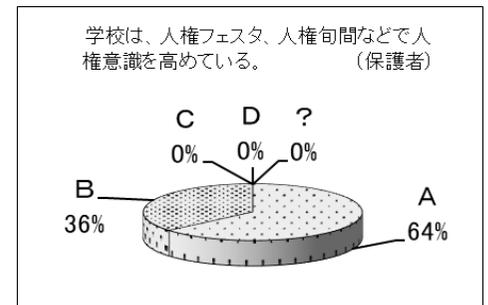
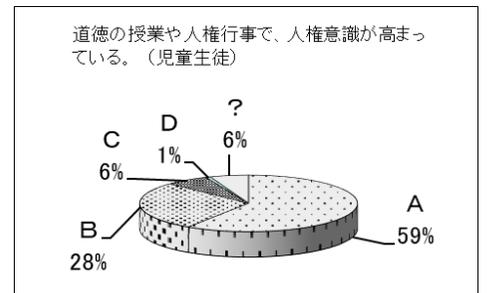
河合小中学校が5・4制による小中一貫教育を始めて今年で8年目になりました。児童生徒のアンケートから、「小学校から中学校教師の授業を受けることで中学校生活に慣れることができた。」について肯定的な評価が8割以上で小中一貫の有効性を子ども達を感じていることが読み取れました。

また、保護者の9割以上の方より、学校が小中一貫教育を積極的に行っているとの評価をいただいています。これらの様子から、河合校区において小中一貫教育が教育環境の基盤となっていることをうかがうことができます。今後も小中の教職員で小中一貫教育を一層充実させていきたいと考えています。



6 人権・心の教育

「人権フェスタ、人権旬間などで人権意識を高めている」の項目では、保護者のポイントが昨年に比べて「ややそう思う」から「そう思う」に動いています。今年度はコロナの影響で縮小化されていた人権フェスタの内容を少し充実させ、学年発表を行いました。児童生徒たちが学んだことや感じたことを家庭で話す機会も多かったことがアンケート結果に反映されているのだと思います。行事だけで終わらず、日々の道德の授業や生活の中でも人権意識を高められるよう、心の教育に邁進してまいります。



7 総括

保護者の皆様には、学校評価アンケートにご回答いただきありがとうございました。今回、ご回答いただきました項目について学校内で検証を行いました。本校の児童生徒は年々落ち着いた生活を送ることができており、それも家庭や地域の方々に支えられているためであると、アンケート結果より改めて感じることができました。そして子ども達のアンケートからも学校生活に前向きな気持ちで取り組んでいる様子がうかがえました。一方で来年度に向けたご意見もいただきました。保護者の皆様や地域の皆様のご期待に添えますよう教育活動の充実に向けて努力してまいります。今後とも本校教育にご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。